

心の表現好きな場所で自由に

いま No.1550
子どもたちは
この小さな学び舎で

2

昨年12月中旬の朝。私立特別支援学校、愛育養護学校（東京都港区）の職員室に、小1のしあくん（7）の姿があった。

「じゃあお出かけしましょ

う」「何を買いますか」と、買かな？ さっきもさわってたい物ごっこを始めたしあくんがし」「たぶん、箱だよね」座っているのは、先生たちの机とファイルなどが並ぶ棚の間。しあくんは「これも面白い物に持っていこうか」と、書類やファイルと一緒に棚に置かれていた四角い缶を手にとった。職員室の入り口で様子を見ていた畑中友美先生（32）と大羽太郎先生（52）は、こそこそと話す。

「缶か箱が好きなんじゃない最初手にとった四角い缶をそ

つと受け取った。どうやら、事務作業に必要なメモが入っていたようだ。



愛育の子どもたちは登校すると、校内の様々な場所で自由に過ごす。教室、裏庭、ホール……。職員室も、大人の思いに触れたり、新しい価値観と出会ったりすることができる場所だ。子どもたちには、それぞれが落ち着き、気に入る場所がある。

愛育には、言語表現がたない子どもも多い。愛育に勤務して36年になる玉木喜美子先生（60）は「だからこそ、どこで何

をするか、その行為を通して、子どもたちそれぞれの心の表現をいいねいに感じたい」と言う。

「子どもが何かを始めようとしている時に止めてしまうと、その先には何も広がらないでしょう？」

また別の日。2階のトイレから、幼稚園の女の子の声が聞えた。隠れるのが楽しくて笑ってしまいうらしい。「笑うと見つかっちゃうのにな」と先生。

愛育では、常にどこからか、誰かの声が聞こえてくる。

（円山史）